

□ 書評 □

前川和彦・相川直樹(総編集)

今日の救急治療指針

山本修三

(済生会神奈川病院院長)

近年、わが国の救急医療は一次、二次、三次救急という階層的体制の整備の下で、飛躍的に発展・普及、定着してきた。その発展の過程において、救急医療は試行錯誤を繰り返しながらも、救急医学という学問的基盤の進歩に支えられ、確実なものになりつつある。

このように、救急医学および臨床応用としての救急医療の専門性が明確にされるなかで、これまでの各科対応の救急疾患に対する考えかたも大きく見直されつつある。

今回、医学書院から発行された「今日の救急治療指針」は、このような広い分野にわたる救急医療の現時点での知識と技術をまとめたものである。その内容は生命危機への対応、機能障害の予防への対応など救急医療に共通する優先処置を柱に、一次から三次救急までの実用的な内容を含んでいる。

本書は第1章、救命処置を要する致死的病態の項目に始まり、症状、徴候からのアプローチ、各科救急疾患、外傷、中毒、環境異常などに加え、救急のための手技、検査・診断なども独立した項目として取り上げられている。また、感染の問題、集団災害への対応なども重要な項目として解説されており、最後の第14章、救急医療体制の知識・法規に至るまで救急医療の全ての分野を網羅している。

本書の著者らは、現在、救急医学に携わる現場の指導者を中心に、各科救急疾患の部分ではそれぞれの専門家が担当し、各項目で一定の書式のもとにまとめられている。したがって、それらの内容は単なるノウハウではなく、新しい内容をもりこんだ理論にも触れており、また、手技では具体的な記載に加え、ピットフォールも記述されている丁寧さがある。付録として、救急室の整備と機器、救急常備薬、救急薬品の投与方法、検査基準一覧なども記載されている。

構成では目次につづいて、欧文略語がまず整理されており、本文、付録のあと末尾の索引は邦文、英文索引がそれぞれ独立して記載されているのも本書を使いやすくしている要素といえる。ハンディに救急処置室で利用できるタイプの本書であるが、その中に必要なものが全て整理されて含まれていることに編集の苦労が伺える。

本書の総編集は東京大学の前川和彦教授と慶應義塾大学の相川直樹教授があたっているが、このお二人が救急医学の分野で医学、臨床の実力を備えた優れた論客であることはよく知られている。このお二人の編集姿勢が本書のきめのこまかさや厳密さにつながっているといえよう。

本書は救急医療の知識、手技など現在の高いレベルでまとめあげた手引き書として極めて利用価値の高い本であり、研修医は勿論、各科のレジデント、さらには救急医療に携わるベテランの医師に至るまで、利用されうる実用書といえよう。

(B6 頁800 写真348 カラー写真9 定価13,390円(税込) 千400 1996年 医学書院・刊)